

第74回日本PTA東海北陸ブロック研究大会 第2分科会 家庭教育B

報告者 白山市PTA連合会 運営幹事 山本恵史

日 時 : 平成30年10月19日(金) 13:30~16:00

場 所 : 岡崎市シビックセンター

研究発表 : 親子で笑・楽・好

(名古屋市立砂田橋小学校PTA)

家庭教育力の強化を図ろう - 自己肯定感を高め、人間力を育む -

(愛知県岡崎市立翔南中学校PTA)

パネルディスカッション :

助言者 加藤 環(西三河教育事務所 教育主事)

コーディネーター 鈴木 伸子(愛知教育大学 教授)

パネリスト 後藤 禎夫(愛知県小中PTA連絡協議会 元会長)

前原健太郎(愛知県小中PTA連絡協議会 元監査)

古川 一郎(名古屋市立砂田橋小学校PTA会長)

吉見 大和(愛知県岡崎市立翔南中学校PTA会長)



愛知県岡崎市にある岡崎市シビックセンターで開催された第2分科会「家庭教育B」に参加し、名古屋市立砂田橋小学校PTA、愛知県岡崎市立翔南中学校PTAの研究発表を見てきました。

砂田橋小学校PTAでは、近隣の小中学校とともに三校合同の家庭教育セミナーを毎年実施しており、昨年度はセミナー講師を招き、「親子のコミュニケーション」について学習したとのことでした。

講師を招いて学習する活動はどのPTAでも行っているものですが、同校PTAが取り組んだのは、学んだことをさらに家庭で実践してみる「親学アクション」です。

セミナーで学んだことを家庭で実践してみることで、さらに「親力向上」に繋がる良い取り組みだと思いました。

翔南中学校PTAは、子どもが生きていくための「人間力」を育むため、「自己肯定感」を高める取り組みを行ったとのことでした。

自己肯定感の本当の意味は「どんな自分もいてもよい。」と感ずることだそうで、子どもに接するときには子どもの人格・価値観を否定せずに一人の人間として認めることが重要とのことでした。

翔南中学校PTAでは3か月間に3つのテーマ(「子どものいいところ探し」、「『なんで』攻撃をしない」、「行動を叱っても人格を否定しない」)を設定し、家庭教育チャレンジと題して、家庭での取り組みを図っていました。

チャレンジ後の保護者アンケートでは、「子どもを叱るときに子どもの気持ちに寄り添えるようになった。」、「『なんで○○なの』という叱り方は『うるさい』としか捉えられず、子どもの心には届かないことが分かった。」など、親としての気付きを得るきっかけになったようでした。

パネルディスカッションでは、研究発表を行った2校の取り組みを振り返りつつ、家庭教育の重要性に関する議論が活発に行われていました。